

1/26 月曜

# 9月 生活潤滑化

## ケア労働

### 現場から

埼玉県川越市の大同作業所は、障害者の働く場や暮らしの場を運営しています。障害の程度や種別を問わず障害者を支援します。入所担当の由香さん（39）は「もの子」は誰も取り残さない。ひとりあつたときは温かい雰囲気がある」と話します。

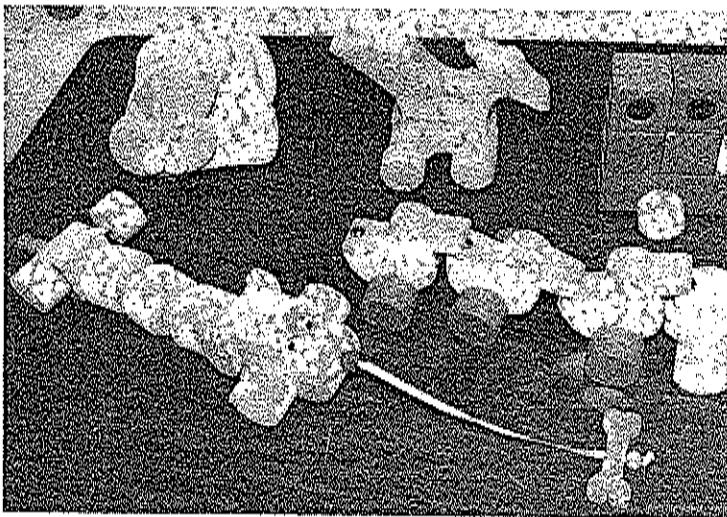
月5回夜勤  
複数体制を

入所施設で生活支援をする由香さんは、「利用者60人以下で一人以上」です。夜勤者を通常と夜勤があります。夜勤が10時から朝6時まで、10時のユーチュ（居住車）で暮らす16人を一人で、何か起きたらと思うだけ待ちます。「一時間と不安です」と話す由香さんは金庫の様子を見回ります。夜中に目覚めておきます。夜勤の場合は加算があります。

「もの子」では利用者を「仲間」と呼びます。由香さんは「障害の気を張っています。自分ある人もない人も対等な一人の人間です」と語ります。

大してかいけれど今まで以上の仲間の体調変化がウイルスを持ち込んではいけないと、外出も控え友人とお疎遠になつたといいます。

## 給与上げ方針もベースが低い 障害福祉職員



川越いもの子作業所の仲間が作った木工おもちゃ

「入所施設は仲間の歸る家。仲間がつらい時も『明日も頑張って仕事を行こう』といふ気持ちだと、なれるようサポートしたい」と語ります。真美さんは、通所施設で働く仲間を支援します。比較的障害の重い仲間たちが、ほつれながら確認しながらタオルを握り、手をつなぎながら、お互いに握り組み大切にして、やりがいの持てるよ

うな取り組みを大切にしています。職員が会員の添いсидりがたい。「上がるのばかりがいい」と話す。会員に参加する「この会員は障害の重い人でもおしゃべりがたい。でも、一般的に会員と出べると自然でいる。ベースが低いので、少し上がつても生活が潤うことは思えない」と会員は口をそろえます。

「会員がやつと半分もを持つてゐる」という人。「家庭を支へるのは難しい」と結婚を機に職場を去る人…。やがては感じていても、低賃金のために生き方を左右される職員が少なくありません。

「人の役に立つて育つても自分の人生もあがめない。離職の理由は給料の面が大きい。一般の会社と同じぐらい給与が上がれば、なら手ももつと増えます」と話す由香さん。

「じめ」と話します。県の入所施設の待機者は数は、約1600人に上ります。由香さんは「必要としている人は多いのに施設も入手も足りない」と指摘します。

### 結婚を機に 職場去る人

鹿田政樹は障害福祉の

（小林圭子）